



石岡一高 同窓会 會報

—— 発 行 者 ——

石岡一高同窓会

責任者 久保田 健一郎

TEL 0299 (22) 4135 (代)

FAX 0299 (22) 6289

E-mail dousoukai@ishiokal-h.ed.jp

印刷所 高橋印刷

さらなる発展をめざして



同窓会長 久保田 健一郎

寒暖の差が激しく、寒さに身構えたかと思えば春の陽気と、体調を維持することが難しい新春となりましたが同窓会の皆様におかれましてはお健やかに過ごされたこととお喜び申し上げます。

日頃より本会への惜しみないご支援とご協力に心より感謝申し上げます。又、本年度ご卒業された皆様には同窓会へのご加入を頂き誠にありがとうございました。

各方面でのご活躍を期待申し上げます新たな門出にエールを送らせて頂きます。

さて、今年も桜の開花と共に夢と希望に胸ふくらませ新入生が入学してまいります。高校生を対象としたブログを見ますと、本校の生徒は自分達の学校を「文武両道」といじめのない友情に溢れるフレンドリーな高校で学習環境も良いと認識している様です。そうした意味で高校生活を通してバランスのとれた人格形成が成されるものと確信がもてます。

近年では進学率も高く、国立大学・私立大学・専門学校へと進む生徒が多くなっており、将来が楽しみです。又、部活動においてはご承知のことと存じますが、野球部・ウエイトリフティング部・バドミントン部

等は全国・県レベルの実績を残しており、正に、「文武両道」が実践されていると言っても過言ではないと思います。

来年には茨城県において「いきいき茨城ゆめ国体」が開催されます。

特にバドミントン競技は石岡市が会場となっており本校バドミントン部の活躍が大いに期待されます。又、全国レベルにあるウエイトリフティング部からは上位入賞者が必ず出るものと確信しています。野球部にあつては県立高校として夏の県大会での優勝をめざし頑張ってもらいたいと切に願っております。

本校在学生には学業に部活動に熱意を持って取り組んでいただき、これまで築かれてきた歴史と伝統を守りながら先生方の指導のもと若い力でこれからの時代にあつた高校へと発展させていただくことを願っております。我々同窓会はその若い力を見守りながら応援していきたいと思ひます。

同窓会の皆様にはより一層のご支援とご協力を申し上げ、石岡一高が山王台の地にしっかりと根を張って輝き続ける事を祈りつつ私の挨拶とさせていただきます。



ご挨拶

学校長 埴 隆之

日本海側の地域が記録的な豪雪に見舞われたこの冬、石岡の地でも一月に降った雪が低温続きで長らく道端に残っていました。

桜の開花も間近になり日差しに心あらぐ季節となりましたが、同窓会員の皆様には益々ご健勝のことと存じます。また、日頃より高校教育活動に物心両面でご支援をいただき、心から御礼申し上げます。

さて、平成二十六年に共用を開始しました新校舎は、保護者の皆様のご支援により冷暖房完備の学習環境となり、また、大講義室では一三〇人が同時に学習を展開でき、快適で幅広い利用形態を備えた校舎として、生徒の学校・学習活動を支えています。

この間、平成二十九年度の卒業生は国公立大学現役合格二十四名という快挙を成し遂げ、私立大学合格者数も前年比一〇〇名の増加となりました。これは高校大学接続改革を先進的に捉え、生徒が三年生の最後まで実力を伸ばしながら進路学習に取り組む指針を進めたことによる大きな成果の一つと考えています。

また、特別活動では、硬式野球部の

春季関東大会二年連続出場、国体バド

ミントン少年少女の部での全国優勝、ウエイトリフティング部の関東大会団体優勝や個人全国優勝など、本校の歴史に輝きを加えその活躍に胸躍る結果となりました。演芸・造園科の活動でも、意見発表関東大会や全国大会への出場、全国フラワーアレンジメントでの銀賞、技能五輪全国大会造園の部でも銅賞を受賞しました。その功績は、校舎昇降口前の通路（山王門）の壁面や山王神社前に誇らしく掲示しております。

地域連携も生徒の社会性育成や自己を見つめる機会として、石岡市や商工会議所のイベントに生徒会・農業クラブ・音楽部・美術部・JRC部などの参加がありました。地域の皆さまと繋がる活動を通して、石岡市を中心とした地元を見つめ、さらに日本各地に活動の場を設けた後に、地元に関わり貢献する人材になって戻って欲しいという願いを持します。

この二年間、生徒の皆さんには「成りたい自分に成る」という言葉を掲げ、目標を設定する事の大切さと、今までの自分から脱皮して、新たな自己研鑽

となるような意欲的活動の機会を見いだそうと取り組んで参りました。

一一〇周年事業を二年後に控え、生徒の学習環境と学校の価値を高めるべく、同窓会員の皆さまのご支援を基に、事業内容を企画していく所存であります。

従前以上のご支援とご協力をお願いし、ご挨拶に代えさせていただきます。



石岡一高に想いを寄せて

普通科第一〇五回卒 飯島 佑也

石岡一高を卒業して一年が経ちました。時の流れの速さに驚きつつも、自身の高校生活を懐かしく思い出しています。私が一年生の時に今の新校舎が完成し、新たな歴史がスタートしました。仮校舎で数ヶ月を過ごし、そこを離れる寂しさを感じながらも新校舎に初めて入った時には、心を躍らせて、また頑張ろうという気持ちに満ちあふれていたことを今でも鮮明に覚えています。また、石岡一高で過ごした三年間は何物にも代え難い特別なものであると感じています。個性ある多くの仲間たちと共に、笑い、励まし合い、時には涙を流しながらも勉強や運動にと多くのことをしてきました。その思い

出全てが宝物になっています。それだけではありません。この学校には多くの素晴らしい先生方がいます。厳しさの中にも優しさがあり、生徒のことを何よりも一番に、親身になって考えてくれています。このような環境で学べた三年間は私にとって非常に良い経験となりました。在校生の皆さんも、この石岡一高という環境の中で、たった一度しかない高校生活を意義のあるものにし、夢や目標に向かって邁進していただく。最後になりますが石岡一高のますますのご発展と在校生や先生方のご活躍を心からお祈りしています。



●平成二十七・二十八・二十九年度

同窓会総会報告

平成二十七・二十八・二十九年度、一般事業・会計関係の議案を議決いたしました。

また、五十周年祝賀会は、年々参加者が多く卒業生の交流が盛んになっております。来年度は五十六回卒（昭和四十二年卒）となっておりますのでよろしく願います。

同窓会員の皆様におかれましては、一連の取り組みにご理解とご支援を賜りましてありがとうございます。なお、今年度からの役員につきましては、次のようになります。

役員体制

会長 久保田 健一郎（57回卒）
副会長 磯 部 太郎平（51回卒）
大和田 智 弘（52回卒）
神 生 賢 一（60回卒）
監 査 坂 本 秀 夫（55回卒）
長谷川 重 幸（60回卒）

◎平成27年7月5日(土)本校会議室

役員異動

卒業回数別代議員（第104回卒）
平成27年3月卒
白井 聖人（土浦市）
麻尾 奎介（石岡市）

卒業五十周年祝賀会を七月五日に開催しました。招待者は五十四回卒（昭和四十年卒）で出席者は十六名でした。

◎平成28年7月4日(土)本校会議室

役員異動

副会長 江原 均（退任）
卒業回数別代議員（第105回卒）
平成28年3月卒
佐藤 陸（笠間市）
伊藤ひかり（かすみがうら市）
中嶋 秀人（石岡市）

卒業五十周年祝賀会を七月四日に開



催しました。招待者は五十五回卒（昭和四十一年卒）で出席者は三十二名でした。

◎平成29年7月1日(土)本校会議室

役員異動

会長 金井 一夫（退任）
副会長 久保田健一郎（就任）
阿見支部理事
支 部 長 野口 政一（35回卒）
副支部長 山崎 政雄（35回卒）
卒業回数別代議員（第106回卒）
平成29年3月卒
岡野 将熙（つくば市）
鈴木 綾馬（かすみがうら市）

卒業五十周年祝賀会を七月一日に開



催しました。招待者は五十六回卒（昭和四十二年卒）で出席者は三十一名でした。

※学校からの要望で会報の発行を三年に一度とし、その分部活動を補助することになりました。

- 一、部活動の遠征費の二割を負担した。（年間70万円）
- 二、県費で購入することが難しい物品を年間30万円上限に援助する。
- 三、最初の二年間は特例として百万円を補助することが承認されました。

山王台 点 描

石岡一高での農業教育に思うこと

松原 秀雄

石岡一高勤務三年目がまもなく過ぎようとしております。現在は農場部のまとめ役を仰せつかっており充実した日々を送らせて頂いております。私事ではありますが平成九年四月に臨時職員として赴任して以来震災の年、平成二十二年三月まで勤務しており今回で二度目の勤務となります。今回、同窓会誌への寄稿のお話を頂き、どのようなことを書けばよいのかと考えましたが、農業の授業を通しての生徒との話、関わりや農場部の取り組み等について書かせて頂こうと思います。

赴任した平成九年当時は、バブル経済の崩壊、それに伴う金融危機など社会情勢の不安定要因などもあり進路指導をなされる先生方が苦労されていたことを思い出します。また、社会の流行に敏感な生徒も多く生徒指導なども求められることの多い時期でした。この当時の石岡一高の先生方はベテラン

の先生方が大変多く、生徒との接し方など農業団体から転職者であった私に様々なことをご教授して下さいました。また、農場部の先生方は年配の先生方が多く、個性が非常に豊かで様々な事に圧倒され大変勉強になりました。

まず、私は農業団体勤務時に考えていたこと、それは今日でも言われている担い手高齢化の問題でした。その問題解決の一助になればと思い高校農業科の教員を志しました。しかし、赴任してみると農業者の子弟はほぼ皆無、中には農業に興味のない生徒も僅かながら見られました。そのような生徒達にどのような学習法、環境を作ればよいのか先生方にお話を伺い、相談しながら試行錯誤しました。

園芸科の中にも様々な分野があり露地野菜の担当になりました。実習を行った際、初めて農業を実践する者が多くまして私自身が教育・指導は初めてであり組まれた先生にはご迷惑をおかけしました。二度目赴任で果樹担当になった際もご迷惑をおかけしました。

実習は本校から約4kmを離れた第二農場で行います。本校と余り変わらぬ面積があり、バスで移動するわけですが体を動かし取り組む実習を楽しみにしている生徒、農業が初めての生徒が多く実習内容について精査し安全確認してから取り組ませたものです。とくに作業だけでなく生育調査、雑草、害虫、病気など実習をしながらの学習を

心掛けました。

また、その当時「後継者育成」「命を育む学習」という目標がありましたのでそれに沿えるよう努力、研究したものです。

栽培作物も、播種から収穫まで栽培期間が長く観察が容易なもの、一般的な野菜で生徒達に馴染み深いものなどを採用し興味関心の持てる実習を心がけました。また、生徒達から作りたい農作物を聞き、理由、栽培法などを調べさせ、発表させるなど今で言う「アクティブ・ラーニング」に近い学習展開を実施しました。もちろん可能なものは栽培させました。今でも生徒達の笑顔が印象に残っています。

教室授業においても身近で分かりやすいものを取り入れるなどの工夫をしました。肥料の授業の時などは「稲妻」の話などをして興味・関心を持たせるようにしました。一般に知られている話でも知らない生徒が多く稲妻の光、放電により大気中の窒素がアンモニア成分になり雨と一緒に土に溶け込む。稲妻が多い年は豊作になるという話があるのはこのためだと言われていると話をしました。夫婦が寄り添うのと同じ表現で稲にとっては妻のような存在であるから「稲妻」と言われている説があると伝え教えました。このような話は興味深く聞いてくれていました。これらの取り組みは今の私にとって大きな財産になっています。

現在の石岡一高農場部での取り組み

では資格取得や北海道実習があげられます。資格取得では造園技能士やビジネス文書、日本農業技能検定など授業を主体として取り組んでおり生徒達の学習に臨む態度は真剣なものがあります。こちらも生徒の意欲に応えるべく相当の準備を心掛けて臨んでおります。また、夏休みに科ごとに希望者を募る資格取得も実施しています。

北海道実習では、拓殖大学北海道短期大学にご協力をいただき実施しております。一週間に渡り生産者のお宅でお世話になりながら行う農業実習、大学での講義など普通の高校生活では味わうことのできない貴重な体験をさせていたただいております。私も何度か引率でお世話になっておりますが、北海道の広大な農地、数多くの農産物、生徒と共に感動したものです。また、生徒が言うには「地面と空が繋がっている景色」など地元茨城では想像もつかないものもそこにはあると感じたのでしょう。これらを体験した生徒達は向上心・学習意欲・勤労観において成長が著しく進路実現に向けての取り組みも目を見張るものがありました。

時代と共に取り組むべき課題、要望などにより様々変化する農業教育ですが常に生徒を中心に考え進路実現、そして社会性豊かな人材の育成に努力していきたいと思っております。他の教科にはない「命を育む」ということの意味を生徒達にこの石岡一高での生活で学んでもらいたいと思っております。

硬式野球部

《平成27年度成績》

・第67回春季高校野球茨城県ベスト4

・第97回選手権茨城県大会ベスト8

・第68回秋季高校野球県大会ベスト8

《平成28年度成績》

・第68回春季高校野球茨城県準優勝

・第68回春季関東大会ベスト16

・第98回選手権茨城県大会二回戦

・第69回秋季高校野球県大会ベスト16

《平成29年度成績》

・第69回春季高校野球茨城県ベスト4

・第69回春季関東大会出場

・第99回選手権茨城県大会ベスト16

・第70回秋季高校野球県大会出場



バレーボール部

【男子バレーボール】

・平成27年度新人大会県ベスト16

・平成28年度関東大会県大会出場

・平成28年度高校総体県大会出場

・平成28年度新人大会県大会出場

・平成29年度新人大会県大会出場

【女子バレーボール】

ソフトテニス部

《平成27年度》

・関東大会県南地区予選

・男子団体 3位 県大会出場

・男子個人 甘利・小谷野ペア



石島・竹内ペア

県大会出場

女子団体 4位 県大会出場

・全国大会県南地区予選

男子団体 1位 県大会出場

男子個人 石島・竹内ペア

添田・青木ペア

県大会出場

・県南地区新人大会

男子個人 細谷・青木ペア

県大会出場

女子団体 4位

女子個人 岡田・石塚ペア

県大会出場

《平成28年度》

・関東大会県南地区予選

男子団体 3位 県大会出場

女子団体 4位 県大会出場

・全国大会県南地区予選

男子団体 4位 県大会出場

女子団体 1位 県大会出場

・県新人大会

女子団体 ベスト16

《平成29年度》

・関東大会県南地区予選

女子団体 2位 県大会出場

・関東大会県予選

女子団体 ベスト16

女子個人 富田・河原井ペア

関東大会出場

・全国大会県南地区予選

女子団体 3位 県大会出場

・全国大会県予選

女子団体 ベスト16

バドミントン部

・平成27年度関東大会県予選

男子団体 第4位

女子団体 第2位

・平成28年度関東大会県予選

女子団体 第4位

・平成29年度関東大会県予選

女子団体 第2位

・平成29年度全国総体県予選

女子団体 第2位

女子シングルス 第2位 海老澤花

女子ダブルス 第3位 海老澤彩

女子ダブルス 第2位

海老澤 海老澤

・平成29年度全国高校総体

女子ダブルス ベスト16

